

簡易仕様書

- ・ **アプリ名** : HungryNow

- ・ **対象OSおよびブラウザ(バージョン情報含む)**

- 対応OS: Windows, macOS, Linux

- 対応ブラウザ:

- Chrome(133.0.6943.142),Edge(134.0.3124.66),Safari(5.34.54.16)

- ・ **開発環境/言語**

- フロントエンド: HTML, CSS, JavaScript

- バックエンド: Node.js (Express),JavaScript

- ・ **開発期間** : 2025.03.02 ~ 2025.03.13

- ・ **機能概要(機能一覧)**

[検索条件入力画面]

現在地に基づく検索

- Geolocation APIを使用して現在の位置（緯度、経度）を取得

- 現在地を基準に検索範囲（1km / 2km / 3km / 5km / 10km）を選択可能

検索機能

- ユーザーが入力したキーワード（例：「ラーメン」）を基に飲食店を検索

エリア選択機能

- 現在地の代わりに別の地域を選択して検索可能

- 大エリア → 中エリア → 小エリアの順に選択
- 選択したエリアを基に、飲食店リストをジャンルごとに分類して表示
- 1ページ内で複数のジャンル（ラーメン、居酒屋など）の飲食店を一覧表示

[検索結果画面]

フィルタリング機能

- ユーザーが希望するディナー予算、Wi-Fiの有無、飲食店ジャンル、エリアでの絞り込みが可能

飲食店情報の表示項目

- 店舗名、住所、飲食店の写真、営業時間

ページング機能

- 1ページに最大8件の飲食店を表示

[店舗詳細画面]

飲食店の詳細情報表示

- 店舗名、住所、ディナー予算、Wi-Fiの有無、飲食店ジャンル

Google Maps APIを活用したマップ表示

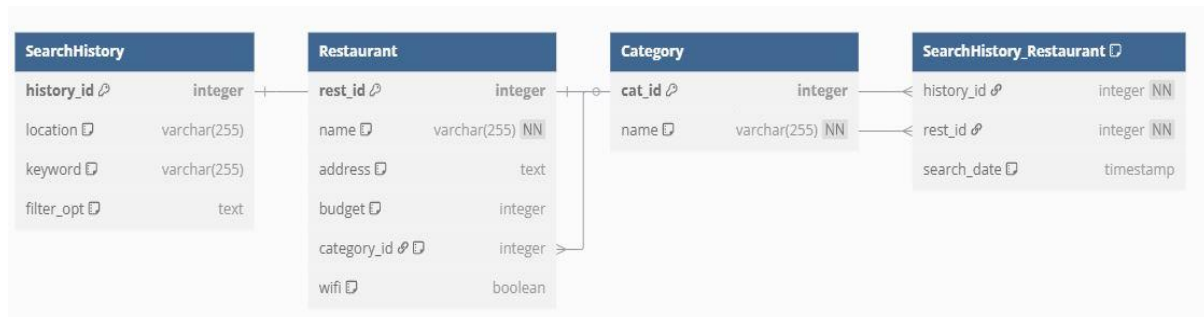
「地図を見る」ボタンをクリックすると、飲食店の位置を地図上で確認可能

今後実装すべき機能

- 距離順/レビュー評点順/価格順など整列機能を追加可能
- より多くの種類のカテゴリーを選択(電話番号、クレジットカードの使用可否、禁煙席の有無、駐車場の利用可否)

・ **フレームワーク(ver.含む)** : Bootstrap 5.3.0, Express 4.21.2

・ テーブル定義(ER図)などの設計ドキュメント



・ 開発環境構築手順 （他の開発者が提出物のウェブアプリを動かし確認できるようにするための具体的な手順）

1. 必須ソフトウェアのインストール

- Chromeブラウザのインストール:Google Chrome公式サイトから最新バージョンのダウンロードとインストール
- vs codeのインストール:vs Code公式サイトからダウンロードしてインストール
- Node.js インストール:Node.js 公式サイトからダウンロードしてインストール

2. 開発に必要なフレームワーク/ライブラリのインストール

- axios:1.8.1, cors:2.8.5, dotenv:16.4.7, express: 4.21.2, express-session: 1.18.1, nodemon: 3.1.9

3. 環境変数設定

- .envファイル作成(APIキー登録が必要)

・ コンセプト

- シンプルで見やすいデザイン
- 位置情報を活用したカテゴリ選択

・こだわったポイント

- 位置情報を活用した検索機能
- 詳細な検索フィルター：ユーザーの好みに合わせて、予算・Wi-Fi有無・ジャンル・エリアなどの条件で絞り込み検索可能

・デザイン面でこだわったポイント

- シンプルなUI/UX: ユーザーが直感的に操作できる
- メインカラーとして食欲を刺激する色「#FF5C69」（暖かみのある赤）を使用し、食欲を引き立てるデザイン
- 位置選択モダルを導入し、ユーザーがスムーズに検索条件を指定できるよう 不要なページ遷移を減らし、直感的な操作が可能に改善

・技術面でアドバイスして欲しいポイント

- 外部 API 呼び出し時の 戦略
- UI / UX のさらなる改善点
- フォルダ構造の改善点

・自己評価

完成度：60%

理由

1. 現在ux/ui的にまだ不足な部分があると思う。
2. 店舗詳細ページで飲食店情報がジャンル:居酒屋、WiFi:未確認、予算:2001~3000円のように固定されて出てくるエラーがあるが解決できなかった。
3. カテゴリ選択の際にスムーズに表示されない場合があり、修正が必要。

4. まだ計画した機能をすべて実装できていない